



——なんの晩になつたのか。そこが疑問なんだ。

大内 時間がね。それは篠田さんや、古賀さんあたりが、段取りしたんじやないんですか。自分がそれをしたわけじゃないから、そこはわからない。前に話がちょっとあるけど、僕は、アントの中央で收拾の方針が決つてそれが、明治のしにまで下りてきていて確認されたと聞いていた。

石井 その時のアント中央というのは、一体誰れだったのだろう。

大内 それなら、よつちゃんしかいないんじゃないですか。

——よつちゃんは、あの当時、中大や専修の活動家と直接に、コソタクト出来るルートを持っていただけで、明治には、それになかつたはずですね。そこは、古賀、齊藤に遠慮していた。

大内 よつちゃんは、明治では直接指導關係はなかつたでしよう。もとそれだ、あの時は、古賀と齊藤は、消えやつてない状態指導方は持つてはいませんでしたね。

石井 まあ巷に流れいた、よつちゃん、古賀、齊藤ライ

ンというの、存在しなかつたわけだ。

大内 そういう指導体制は世間でなんていわれているかは知らないが、あの局面では、関係なかつたはずです。

石井 それにしても前晩、古賀はなぜ知っていたのだろう。

大内 篠田さんか誰かの連絡があつたんじゃないですか。

石井 いや篠田は、古賀とは、連絡がなかつたといつてい

る。

大内 そしたら、古賀さんが、学内で別のルートの工作をしていて、そこから流れてきた情報ではないですか。

石井 それでつじつまが合う。古賀が止められないと言つたのは、自分とは違うルートで、また違う指導でことが進んではいるという意味だったんだと理解すれば、はつきりしている

大内 もし僕のところに調印を延期しろという指令が入つてきていたら、そうしますよ。それは可能なことで、さして離しいことはなかつた。自分が決断したんだし、行動は自分でどうにでもなつたはずですから。

石井 まあ妥協するという方針が明大・社学同では、一般的に確認されていたということも、その内容の大筋がだいたいわかつていたというの、これまでの話で十二分に確認できる。

けれどもあいういう場合、難しいのは、タイミング。タイミングが悪ければ、裏切りと言われるし、良ければよかつたということになる。その判断をどうしたか、そこがやはりまだちょっと残っている。

——だって夜なかでしょ。皆んな朝の新聞を見て、ピックリしたんだから……。

大内 そちらは、正直いって僕もほつきりしない。だけど、闘争委員会の主要メンバーは、そここのところ話を話し合って、いたと思う。福島が俺と一緒に出ていたことは、そなうたのはすなんです。

——小森は確か、俺も認めていたと「ちらり」と言っていた。

大内 闘争委員会では、いつの時点でのやるかを討議して、そことでの手続はふんでいたはずだと思ふ。

石井 タイムシングにつくるの社會同の指導はなかつた?

大内 社季同の指導といつては、僕と関係なく、直接的にはその時点ではなかった。僕は、あの時点では、社

学同と接点はなんていよ。ただ闘争委員会のメンバーとの討議や、その情報、いろいろして、社季同と関係していくと

言ふべき言ふべきですね。

小森は俺も、あれを認めただけど、大衆討議にかけ

るという前提でとらへていたけど。

大内 いやね、闘争委員会だって、「ゼロ」に近い状態で、

大衆討議にかけようとしたって、そのようなことが出来る条件はない。大衆抜きのような、組織情況で実際上、そん

なつのできる場面ではなかつたと思う。

——いろいろのスキヤンダルの中で金が動いたというの

があつたけど、そこは……。

大内 冗談じゃあないでしょう。僕は二ヵ月あとに退学になつているんです。誰かもらつた人がいるのか知らないけれど、僕の方にはそんなのなかつたですね。